

# 第4回「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会」 出張オープンキャンパス ～研究室ってどんなところ？ 研究者ってどんな人？～

福江 純<sup>1</sup>・富田 晃彦<sup>2</sup>  
成田 直<sup>3</sup>・渡部 義弥<sup>4</sup>

〈<sup>1</sup>大阪教育大学 〒582-8582 柏原市旭ヶ丘 4-698-1〉〈<sup>2</sup>和歌山大学〉〈<sup>3</sup>川西市立北陵小学校〉〈<sup>4</sup>大阪市立科学館〉  
e-mail: fukue@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

第4回「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会を2011年6月12日(日)に大阪市立科学館で開催した。参加大学数は昨年とほぼ同じ19大学であった(ポスターのみを含む)。高校生ら学生の参加者が約40名、先生や保護者ら一般の参加者が二十数名で、昨年とほぼ同じ65名ほどの参加者だった。今年もポスターセッションを採用し、大学側と参加者のクロスセクションを十分に取った。一方で、大学の個別説明時間(7分)が短いという声もあり、時間配分は難しい。

## 1. 合同進学説明会の目的

いままでの報告<sup>1)3)</sup>で書いたことと重なるが、この合同進学説明会の目的は、天文系の研究室が外部からはわかりにくいことが多い状況で、天文系研究室があることを知らないままになっている層を掘り起こし、優秀な学生を天文業界に誘うことだ。天文系の研究室があることを知ったうえで入学してきた学生は、目的意識も高いだろう。

今年はほぼ昨年の形式を踏襲したので、詳しくは昨年の報告<sup>3)</sup>を参照してもらうこととし、違う点や今年の結果のみ、簡単に報告したい。

## 2. 事前準備は昨年と同様

### ■世話人&会場関係

昨年までは、天文教育普及研究会近畿支部会と大阪市立科学館の共催という形で実施していたが、よりフレキシブルにするために、今回からは、宇宙(天文)を学べる大学合同進学説明会実行委員会という形式を用意した。科学館が共催で、日

本文学会、天文教育普及研究会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会が後援である。

### ■参加大学・講演関係

茨城大学、愛媛大学、大阪教育大学、大阪市立大学、大阪大学、大阪府立大学、岡山理科大学、九州大学、京都産業大学、京都大学、近畿大学、甲南大学、神戸大学、埼玉大学(ポスターのみ)、筑波大学、奈良女子大学、広島大学、立命館大学、和歌山大学の19大学が参加だった。

天文講演会は、神戸大学の中村昭子さん「実験室から挑む惑星科学」と近畿大学の井上開輝さん「端はないが、有限な宇宙」をお願いした。

### ■広報関係

今年は世話人の負担を減らすために、効果のありそうな方面を中心に広報を実施した。具体的には、高校へのDM(70校ほど)やWEBでのアナウンスなどはできるだけ力を入れたが、新聞への掲載依頼などは省略した。

### ■形式

昨年と同じスケジュールで、大学紹介タイム



図1 午前10時半の開始直前の会場風景。



図2 ポスターセッションの会場風景。研修室内にすべてのポスターを貼ったので、若干狭くはあったが、クロスセクションは大きく取れた。

パート1/ランチ&ポスターセッション パート1/大学紹介タイム パート2/休憩&ポスターセッション パート2/天文講演会とした。

### 3. 当日は出だし好調

広報を少し端折った点など若干の心配材料はあったが、かなり早くから参加者が集まり始め、受付開始の10時にはすでに十数人になった。10時半の開始直後に確認した段階で、高校生ら学生の参加者が35人になっていた(図1)。昨年は世話人の都合で土曜日に実施したが、私立などでは土曜日に授業があるところも多く、今年は日曜日に戻したので、それが功を奏したようだ。

内訳としては、高校生ら学生の参加者が四十数

名(中学生2, 高校生33, 予備校生2, 大学生数名), 先生や保護者ら一般の参加者が二十数名あり, 合計で昨年とほぼ同じ65名ほどの参加者だった。また遠方からの参加者としては, 東京・愛知・島根・福岡からわざわざ聴きにきた人もいた。

### 4. 合同進学説明会へのニーズ

アンケート(回収率8割)では, 情報源として, 学校から6/友人から5/親から7/ネット9であった。学校経由とネット経由は昨年同様に多いが, 今年は親や友人経由も多い。今年は雑誌などにはアナウンスしていないので, 遠方からの参加者はネットが情報源である(“宇宙”でググって知ったという回答もあった)。このことを考えると, ごく簡単な予定だけでもいいので, できるだけ早めにネットに掲載するのがよさそうだ。

開催スタイルはおおむね平衡状態に達したと思われるが, どれぐらい続けられるかは悩むところではある。最近, 教育系の会社が企画するかなり大がかりな合同進学説明会も始まっている。例えば, 「夢ナビライブ2011 国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス」というものでは, 今年の2回目は東京・名古屋・大阪で催され, 大阪会場では12,000人の参加者を予定している。規模が3桁違う(予算は無限倍違う)。一方で, 今回も遠方からの参加者もあることなど, 天文(宇宙)へのニーズが高いのも間違いない。

今回の説明会で聞いた話だが, この合同進学説明会に参加して, その結果, 入学してきた学生もチラホラ出ているようである。昨年の報告でも書いたが, 初回に参加した高校生(2年生)が, ストレートで進めば来年春に4回生になるので, 可能なら追跡調査をしたいと考えている。

### 参考文献

- 1) 福江 純ほか, 2009, 天文月報 102, 48
- 2) 福江 純ほか, 2010, 天文月報 103, 67
- 3) 福江 純ほか, 2010, 天文月報 103, 701